

静岡県 幼保小の架け橋プログラム

学びをつなぐ 架け橋期のカリキュラム作成・実践・発展の手引き ～作成編～



この手引きでは、架け橋期のカリキュラムの作成→実践→発展を通して、架け橋期の教育・保育の充実を目指します。
公私立園や施設類型の別なく全ての幼児教育施設・学校・市町が一体となり、架け橋期のこどもの学びを未来へとつないでいきましょう!

静岡県幼児教育推進マスコットキャラクター
「わっ!ぴよん」

令和8年3月 静岡県幼児教育センター

教えて
わっぴゃん!

幼児期の教育と小学校教育の学びがつながるってどういうこと?

参考:「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと?」幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料(文部科学省) ※記載内容等一部変更



まずは幼児期の教育と小学校教育の特徴から見てみよう。



幼児期の教育

小学校教育

教育の目標

「感じる」「気付く」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」等の
経験を重視

「~できるようになる」「分かるようになる」等の
目標への到達度を重視

教育の方法等

遊びを通した総合的な指導

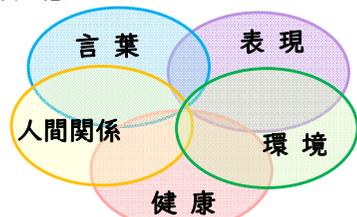
各教科等の目標・内容に沿って選択された
教材による授業

要領等

幼稚園教育要領/保育所保育指針/
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
5つの領域からなる「ねらい」と「内容」

小学校学習指導要領等
各教科等における目標及び内容

【5つの領域】



遊 び

授 業

【各教科等】

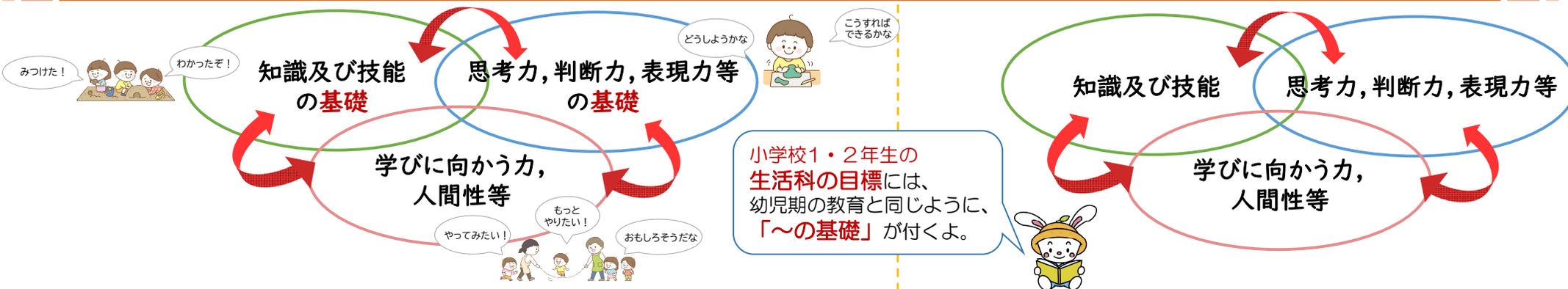
幼児期の教育、小学校教育ともに、
主体的・対話的で深い学びの実現
を目指しています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
(10の姿)は、
幼児期の教育との小学校教育のつながりを
考える手掛かりとして活用できるね。



国語	社会	算数	理科	生活
音楽	図画工作	家庭	体育	
道徳	外国語活動・外国語			
総合的な学習の時間			特別活動	

幼児期の教育と学校教育には、教育の目標や指導方法など様々な違いがありますが、
一人一人の資質・能力を育てていくことには変わりはありません。



こどもの学びや成長は連続しています。だからこそ、園と学校が互いの教育を理解し合い、学びのつながりを意識した組織的かつ計画的なカリキュラムを編成していくことが必要となります。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

ア 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。

また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。

また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。

また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにできるようになる。



キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えて関わるようになる。



ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



ケ 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



コ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

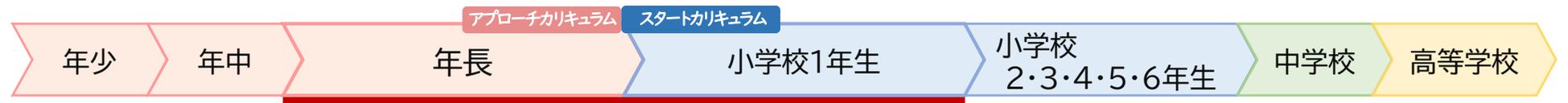


- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、乳幼児教育施設等で乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力が育まれていることでの具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。
- 保育者は、遊びの中でこどもが発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められます。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。こどもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全てのこどもに同じように見られるものではないことに留意する必要があります。
- 5歳児後半に突然見られるようになるものではないため、こどもが発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要があります。



学びをつなぐ「**架け橋期のカリキュラム**」ってなんだろう？

幼児期に育まれたこども一人一人の資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくために、
幼保小の先生が、共通の視点をもって協働して作成し、互いの教育内容や教育方法の充実を図っていくものです。



架け橋期 (年長4月から小学校1年生3月までの2年間)

- * 架け橋期のカリキュラム ***
幼保小が協働して期待するこども像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を**明確化したもの**
- * 架け橋期のコーディネーター ***
幼児教育と小学校の両施設に対して「架け橋期のカリキュラム」の作成・実施に向けた助言等を主に担当する職員のこと

1年生はゼロからのスタートではないよ。
園での遊びで育まれた資質・能力を、小学校での学びになめらかにつなげていくことが大切！

架け橋期のカリキュラムを作成するプロセスを通して、園と学校の**互いの「教育の質向上」**につながります。

わたしたちが園でどんな経験をしてきたのか、小学校の先生にも聞いてほしいよ。
園での経験を生かして、1年生でも安心して自分の力を発揮したいな。

静岡県では、市町・園・学校のそれぞれ連携・協働体制をもとに、
3つのステップで架け橋期のカリキュラム作成→実践→発展を推進します。

	市町の取組	園・学校の取組
ステップ1	架け橋期のカリキュラムの土台完成	
作成編	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム枠・作成グループの提案(前年度) 連携・接続する園・学校のグループ決定 架け橋期のコーディネーターの配置・周知 カリキュラムの作成に向けた市町主催の幼保小合同研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の円滑な接続に向けた体制 教育・保育目標、年間計画等の共有 こども同士の交流の計画・実施 公開保育・授業参観の計画・実施
ステップ2	架け橋期のカリキュラムの実践→追加・修正	
実践編	<ul style="list-style-type: none"> 園訪問・学校訪問等で各学校区の実態把握・支援 各学校区の取組を紹介・広報 架け橋期のカリキュラムの追加・修正に向けた市町幼保小合同研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを明確にした交流の計画・実施 学びのつながりを意識した学校区幼保小合同研修会(参観を含む)の実施 参観シートを活用した事後研修の実施
ステップ3	園や学校の実態に応じた架け橋期のカリキュラムへの発展	
発展編	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの発展に向けた市町幼保小合同研修会の実施 架け橋期のコーディネーターと幼児教育アドバイザーの指導によるカリキュラムの改善・工夫 地域や保護者等への広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 学校区幼保小合同研修会の充実 学びのつながりを生かした授業・保育の実践

幼保小接続の方向性や取組を教職員・保護者・地域等と共有し、目指すこどもの姿の実現に向けた教育の質向上につなげる

市町の取組

市町が主体となり、幼保小接続の推進に向けて園や学校と合意形成を図り、連携体制の基盤をつくましよう。

まずはここから！
今できているものに☑を入れて確認してみよう。



各グループの学校が中心となり、連携・協働を進めていきましょう。

園・学校の取組

幼保小の円滑な接続に向けた体制

☐ 各園・学校で、幼保小接続担当教職員を決めましょう。(外部との連携・調整役である主任や教務主任等を推奨)

☐ 学校区で管理職や幼保小接続担当教職員の顔合わせ会をしましょう。

☐ 架け橋期のコーディネーターや幼児教育アドバイザーを全職員に紹介しましょう。

教育・保育目標、年間計画等の共有

☐ 園・学校便り等を連携する園や学校に配布しましょう。

☐ 園・学校便り等を園校内に回覧や掲示等をし、全職員に周知しましょう。

☐ 管理職同士が、教育方針や教育課程、グランドデザイン等を確認し合い、各園や学校の目指すこどもの姿を共有しましょう。

子ども同士の交流の計画・実施

☐ すでに行っている生活科等の交流などを、無理なく継続できるかたちで、カリキュラムに位置付けましょう。

☐ 1年生だけでなく、入学後にペアとなる5年生や他学年との交流の場も検討しましょう。

公開保育・授業参観の計画・実施

☐ 各園や小学校で実施予定の公開保育・公開授業の日時を一覧表にまとめ、全職員1人1回は参加しましょう。

☐ 普段の保育・授業やこどもの姿を気軽に見に行けるように、管理職、接続担当等が密に連絡を取り合います。

☐ 保育・授業参観用シート(P7参照)に記入しながら、視点をもって参観しましょう。

☐ 参観するだけでなく、できるだけ事後研修会等にも参加しましょう。

カリキュラム作成に向けた幼保小合同研修会の実施



市町主催の研修会等を活用して

- 管理職(校長・園長、教頭・副園長等)研修
- 教務主任・園務主任研修
- 5歳児担当・小学校1年生担当者研修
- 幼保小接続担当者研修 等

* 幼児教育担当者と学校教育担当指導主事、架け橋期のコーディネーターと幼児教育アドバイザーが連携して研修会の企画・運営をしましょう。

研修会での話合いの視点(例)

- 学校区で目指すこども像
- 重点的に育みたい力(特に大切にしたいこと)
- 育ちと学びのつながり(園で展開される活動(遊び)と生活科を中心とした各教科等の単元構成等とのつながりがみられるところ)
- こども・教職員・家庭や地域との交流・連携
- 実践の振り返りを通した次年度に向けた改善や計画

* この話合いの視点が、架け橋期のカリキュラムに記載する項目にもつながりませう。市町の実態に応じて視点を吟味・精選しましょう。

カリキュラム作成に向けたポイント

○ 架け橋期のカリキュラムは、学校区で目指すこどもの姿を共有し、各園・学校の教育課程とのつながりをもたせて作成することが大切です。

○ 文部科学省作成の動画(参考資料参照)や、公開保育・授業参観のこどもの姿を通して、幼児期の教育と小学校教育の学びが繋がっていることについて理解を深めましょう。

○ 幼児期の遊びと生活科等を中心とした全ての教科等の学びの共通点や相違点について、具体のこどもの姿で語り合います。

○ 5歳児や小学校1年生の保育・授業を実際に参観したあと、こどもの姿を通してカリキュラム作成に向けた話合いを行っていきましょう。

○ 作成したカリキュラムは、各園や学校で全教職員に共有して意見をもらいましょう。



＜ 参考資料 ＞

文部科学省HP
・ 幼保小の架け橋プログラム



静岡県公式HP
・ Springプロジェクト



・ 県版架け橋期のカリキュラム作成・実践・発展の手引き

・ [動画等]幼児教育の重要性



作成:静岡県幼児教育センター

園・学校名 **①連携・協働するグループの園・学校名を記入する。**

この例では中学校区グループだが、小学校区にするなど各市町の実態に応じて変更する。

()市・町 ()グループ 架け橋期のカリキュラム

目指すこども像 **②市町や学校区等で目指すこども像を記入する。**(すでに市町や学校区等で設定されているものでよい)

重点的に育みたい力(特に大切にしたいこと) **③目指すこども像に近づくために、園と学校で共通の育みたい力やこどもの姿を記入する。**
※記入例のように関連する10の姿を示してもよい。

- | | | | | |
|---------------|------------|----------|-------------------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ②自立心 | ③協同性 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑤社会生活との関わり | ⑥思考力の芽生え | ⑦自然との関わり・生命尊重 | ⑨言葉による伝え合い |
| | | | | ⑩豊かな感性と表現 |

時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	年長児(5歳児)												1年生											

育ちと学びのつながり

※園で展開される活動(遊び)等

※生活科を中心とした各教科等の単元構成等

④園や学校のこどもの育ちや学びのつながりが見えるように記入する。
学びの連続性が分かるように具体的なこどもの姿(「秋みつけ」等参照)を入れるのが望ましいが、市町等作成の別シートがある場合は、活動名等のみでもよい。

※学校区内で園により実態が大きく異なる場合には、園ごとに行を分けて記載してもよい。

※遊びや授業の様子がわかるこどもの写真を掲載するなどして、見た人がイメージを持ちやすいものにする。
合同研修会等で互いに写真を持ち寄って、写真をもとにこどもの姿を語り合ったり、掲載する写真を選んだりしてもよい。

指導上の配慮事項(環境構成等) **⑤上記の活動(遊び)や各教科等の単元構成等についての配慮事項を、各園や学校の実態に応じて記入する。**
先生の関わり、こどもの学びを豊かにする園の環境構成や小学校の環境づくりなど。

交流・連携

こども **⑥こども同士が一緒に活動したり交流したりする場や内容を記入する。**

教職員 **⑦教職員同士が交流・連携する場や内容を記入する。**

家庭地域 **⑧家庭・地域との交流・連携する場や内容を記入する。**

※この例では、1年を4ステージに分けて点線を入れて記載しているが、市町や園、学校の実態に応じて分け方は変更してよい。
※このカリキュラムは、実践の積み重ねと振り返りで徐々に作り上げていくものなので、余白があってよい。

振り返り **⑨市町や学校グループで決めたステージをめどに定期的に振り返りを行い、カリキュラムの加除修正、次のステージや来年度の実践につなげる。**



()市・町 ()グループ 架け橋期のカリキュラム

園・学校名

目指すこども像																								
重点的に育みたい力 (特に大切にしたいこと)	①健康な心と体				②自立心				③協同性				幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）								⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
	④道徳性・規範意識の芽生え				⑤社会生活との関わり				⑥思考力の芽生え				⑦自然との関わり・生命尊重				⑨言葉による伝え合い				⑩豊かな感性と表現			

時期	年長児（5歳児）												1年生											
----	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

育ちと学びのつながり	○砂遊び・泥遊び ○夏野菜を育てよう ○草花遊び・色水遊び ○しゃぼん玉遊び ○水遊び ○お正月遊び ○水遊び ○秋みつけ 葉っぱで作ったベッドに飛び込み、落ち葉のこすれる音や匂い、温かさを体全体で感じている。 ○お正月遊び ○水遊び ○おもい掘り 友達とさつまいものつるの端をもって、縄跳びや長さ比べをしている。 ○鬼遊び・ボール遊び ○ごっこ遊び ○リズム遊び・手遊び歌												○学校探検 ○夏と遊ぼう ○秋と遊ぼう 夏と比較し、秋になると木々が紅葉したり落葉したりすることに気付いている。 ○冬と遊ぼう ○花を育てよう ○生き物となかよし ○もうすぐ2年生 ○算数科「大ききくらべ」 長さの比べ方を園での経験を出し合いながら考えている。 ○特別の教科 道徳「自然愛護」 ○体育科「運動遊び」 ○音楽科「音楽づくり」											
	指導上の配慮事項 (環境構成等)	年長になった喜びや緊張、不安に寄り添い、一人一人の思いを受け止める。 ・小学校の運動会練習を見に行く。												・生活科「秋のお店屋さん」に行ってお遊ぼう。 ・運動会種目の練習を披露する。 ・生活科で年長児招待										

交流・連携	こども	・小学校の運動会練習を見に行く。												・生活科「秋のお店屋さん」に行ってお遊ぼう。												・運動会種目の練習を披露する。												・生活科で年長児招待																																																										
	教職員	・小学校接続担当者との打合せ ・小1授業参観 ・幼保小情報交換会												・園内研修、訪問等公開保育の案内送付 ・幼保小合同研修会①（8月公開保育）												・幼保小合同研修会②（公開授業参観）												・幼保小合同研修会③（次年度方向性検討）												・園接続担当者との打合せ ・小1授業公開 ・幼保小情報交換会												・校内研修、訪問等公開授業の案内送付 ・幼保小合同研修会①（8月保育参観）												・幼保小合同研修会②（公開授業）												・幼保小合同研修会③（次年度方向性検討）										
家庭地域	・学校運営協議会（評価委員会等）で教育基本方針の説明												・幼保小連携の取組の様子を家庭・地域に発信（例：架け橋通信）												・就学時健診で架け橋カリキュラムを紹介												・保護者に1年生応援シート記入依頼(Springプロジェクト参照)												・つながりシートをもとに保護者希望面談 ・学校運営協議会（評価委員会等）で教育基本方針の説明												・幼保小連携の取組の様子を家庭・地域に発信（例：架け橋通信）																																			

振り返り	幼保小接続の必要性を、担当者だけでなく全職員にどう広めるか検討する。												次年度は、接続の手掛かりとなる10の姿について合同で学ぶ機会をつくりたい。（6月頃）												アプローチカリキュラムをもとに小学校の先生とこどもの育ちを共有することができた。												年長児招待の際、事前にこどもがわくわくするような働き掛けを工夫したかった。												スタートカリキュラムをもとに園の先生と一緒に次年度の方向性を話し合うことができた。											
------	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学びの架け橋 わくわく参観シート (静岡県版 保育・授業参観シート)



静岡県公式ホームページ
からダウンロードできます。

学びの架け橋 わくわく参観シート
(静岡県版保育・授業参観シート)



園 小学校	学びの架け橋 わくわく参観シート	令和 年 月 日 ()
----------	------------------	--------------

公開クラス	参観者名
-------	------

①目指すこども像	
②重点的に育みたい力	
③ねらい・目標	
④ここまでのこどもの姿	
⑤参観の視点・ポイント	

園	小学校(中学校)
こどもの遊び(学び)の姿 ・環境構成や援助	こどもの学びの姿 ・環境づくりや支援

記入例



学びの架け橋 わくわく参観シート

作成:静岡県幼児教育センター

①目指すこども像	①～②は、架け橋期のカリキュラムに記載してあるものを記入する。	
②重点的に育みたい力		
③ねらい・目標		
④ここまでのこどもの姿	④は、今日に至るまでのこどもの遊び(学び)の姿を簡潔に記入する。	③～⑤については、参観前に事前説明する時間をもてるとよい。
⑤参観の視点・ポイント		



小中学校の先生が、園参観をするとき

園	小学校(中学校)
① 保育参観で見られたこどもの姿等を記入する。	② 保育参観で見られたこどもの姿につながる小学校でのこどもの姿等をイメージして記入する。
こどもの遊び(学び)の姿 ・環境構成や援助	こどもの学びの姿 ・環境づくりや支援
(例) 「もっと高く積みたいな。」 「お城をつくろう！」 大型積み木やブロックを並べたり積んだりして、組み合わせを何度も変えてかたちをつくらせている。 ・広い場所に、様々なかたちや材質の積み木を用意している。 ・こどもの思いに共感し、「どうすればいいかな」と一緒に考える声掛けをしている。	(例) 算数科「いろいろなかたち」の授業で、転がる仲間など様々な箱や缶のかたちの違いで仲間分けする。 ・導入で、空き箱等を組み合わせ動物や乗り物など自分の好きなものをつくる活動を取り入れる。 図画工作科「箱を組み合わせてつくろう」の授業で、箱のかたちや色の面白さに気付き、組み合わせや接着方法などを工夫する。 ・こどもとともに多種多様な材料を集め、こどもが自分で選択したり試したりできるようにする。



園の先生が、小学校参観をするとき

園	小学校
② 授業参観で見られたこどもの姿につながる幼児期の遊びや経験等を記入する。	① 授業参観で見られたこどもの姿等を記入する。
こどもの遊び(学び)の姿 ・環境構成や援助	こどもの学びの姿 ・環境づくりや支援
(例) 色水遊びで、バケツの水をお玉ですくってボウルに移したり、ジュース屋さんになって、作ったジュースをカップに入れたりする。 ・様々な大きさやかたちのカップを複数用意する。 違うカップに移し替えたときに、水があふれてしまったり、もっとたくさん入れることができたりすることに気付く経験をする。	(例) 算数科「大きさ(かさ)くらべ」の授業で、ペットボトルと水筒に入っている水の量を比べる方法を、実際に試しながら考えている。 「何杯入るかな」と同じ大きさのカップに水を移して確かめている。 ・前の時間の長さ比べのときの様子や「いくつ分」という言葉が掲示されている。

* 「学びの架け橋 わくわく参観シート」は、園や小中学校の先生が互いの保育や授業を参観し、こどもの姿から、園で展開される活動(遊び)と生活科を中心とした各教科等の学びのつながりを考えるための参観シートです。

* 短期計画(日案)や指導案の代わりとして活用できます。

* 参観シートは、接続担当者や研修主任等が①～⑤を記入し、当日までに参観者に渡しましょう。

* 参観する時間は、1時間程度で構いません。

* 事後研修会等に参加が難しい場合は、参観後にこのシートをコピーして、保育者や授業者に渡しましょう。

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現